

酪農学園大学との産学連携 ドローン教習がスタート

2021年7月、サングリーン太陽園は酪農学園大学と包括連携協定を締結しました。この連携協定による取り組みの一つとして、2022年3月1日にスタートさせたのが北海道初の産学連携ドローン教習です。

酪農学園大学では、GIS研究において国際的な受賞歴を有するなど、空間情報分野での先進的な取り組みが

行われています。2009年からは、ドローンを用いた「環境」「農業」「防災」に関する研究も進められており、農業分野においてはドローン画像の解析技術によつて、農作物の収量や栄養価の推定を行うなど、センシングの実績も豊富です。また、研究利用に留まらず、同大学は国土交通省認定の講習団体として、たくさんの方にドローンの資格取得をめざしていただけるようにと教習も行っています。

農業分野における無人航空機の豊富な運用実績を持つ当社と連携したドローン教習コースを創設することにより、単にドローンの操縦が可能になるだけでなく、ドローンを活用して空間情報を活用できる人材の育成が期待できます。教習施設や相互の人的支援を行いながら、効率の良い教習を両者で展開してまいります。



コラム 箸休め

「形は変われども原点は同じ」

先代社長は、1982年の弊誌の創刊にあたり「皆さまと弊社の情報交換のパイプ役として90年代を先取りした情報誌として育てていきたい」と語っています。その目的通り、当初は農業や資材の情報を届ける純粋な技術情報誌でした。80年代後半には、当時の酪農学園大学の教授坂本与市先生による昆虫の生態に関するコラムや、業界関係者との対談、エッセイ、弊社の営業所紹介などを掲載。総合的な情報誌へと変化しました。坂本先生のコラムは24年間もの長きにわたって連載。90年代半ばには、裏表

紙にお子さまが描いた絵や工作を掲載する読者参加型企画「アーティストック・チャイルド」が始まりました。大きな転換期は2007年です。北海道で活躍する農業関係者を紹介する「明日を語ろう！北の農業人」の連載が始まるなど、創業90周年記念誌をきっかけに内容を一新。版型もB5からA4に変え、2011年にはフルカラーとなり、視覚的な変化を加えました。弊誌は、その時代のニーズにより形を変えてまいりました。今後は原点である「時代を先取りした情報誌」に立ち戻

り、従来の新商材情報に加え、サングリングループ独自の展示圃場情報や、テクノロジーファーム西の里から発信するスマート農業情報を皆さまにお伝えし、より充実した情報誌をめざしてまいります。創刊から100号までを読み返すと数多くの方々に登場いただけており、弊誌がいかに皆さまに支えられて成り立っているかを改めて実感いたしました。ご愛読いただいた皆さま、ご登場いただいた皆さま、ご協力をいただいた全ての皆さまに感謝を申し上げます。(K)